

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 バビバレーン広島皆実		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 22日		～ 2026年 1月 17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	2025年 11月 22日		～ 2026年 1月 17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの特性に応じた専門性の高い個別支援ができています	日々の支援記録やモニタリングをもとに、一人ひとりの特性や発達段階に合わせた個別支援計画を作成している。また、運動療育だけでなく、生活スキルやソーシャルスキルの向上も意識し、子どもに合った課題設定を行うことで、専門性の高い支援の提供に努めている。	職員間でのケース共有や研修機会を増やし、支援の専門性の向上を図っていく。また、子どもの発達状況や家庭のニーズをより丁寧に把握し、支援内容の見直しを定期的に行うことで、一人ひとりに応じたより効果的な支援につなげていく。
2	保護者との連携が密で、相談への迅速かつ丁寧な対応ができています	LINEや送迎時の対話、電話など複数の手段を活用し、日々の様子を具体的に伝えることで共通理解を図っている。また、相談や申し入れがあった際には職員間で速やかに情報共有を行い、早期かつ丁寧な対応を心がけている。	日々の情報共有に加え、保護者向けの相談機会や情報提供の場を増やし、支援内容の理解を深めてもらえるよう取り組んでいく。また、ペアレントトレーニングや保護者同士の交流機会の検討を進め、家庭支援の充実を図っていく。
3	安全で清潔な環境が整っており、子どもが安心して楽しく通所できている	子どもが安心して活動できるよう、十分なスペースの確保と整理整頓を徹底している。さらに、コーナーガードや手すりの設置など安全面への配慮を行うとともに、防災・防犯・事故対応の訓練を定期的にも実施し、安全管理の意識向上に努めている。	定期的な環境点検や安全確認を継続するとともに、事故防止の視点を職員間で共有し、未然防止の意識を高めていく。また、子どもが安心して活動できるよう、設備面の改善や活動スペースの工夫を行い、安全で快適な環境づくりを継続していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流や他児童との交流機会が少ない	日々の支援が事業所内活動を中心としているため、外部機関との調整や連携の機会が限られていることが要因として考えられる。また、安全面や送迎時間の制約もあり、地域交流の場を計画的に設定することが難しい状況がある。	地域の保育園や関係機関との情報共有や連携を進め、交流活動の機会を計画的に設定していくことが必要である。また、安全面や送迎時間を考慮しながら、無理のない形で地域行事への参加や合同活動の実施を検討していく。
2	保護者向け研修や保護者同士の交流機会の周知・実施が十分でない	保護者との個別連絡は密に行っている一方で、研修や交流の場については計画的な案内や実施の仕組みが十分に整っていないことが要因として考えられる。また、保護者の就労状況や時間調整の難しさも影響している。	保護者への案内方法を工夫し、定期的に情報提供や研修の機会を設けることが必要である。加えて、保護者が参加しやすい時間帯や形式を検討し、保護者同士が交流できる場づくりを計画的に進めていくことが求められる。
3	活動プログラムのバリエーション（製作活動など）がやや少ない	運動療育を中心とした支援体制となっているため、準備時間や人員配置の関係から製作活動などの多様なプログラムを継続的に取り入れることが難しい状況があることが要因として考えられる。	運動療育に加えて、製作活動や集団活動など多様なプログラムを計画的に取り入れることが必要である。そのため、職員間での役割分担や準備方法の工夫を行い、無理なく継続できる活動内容の充実を図っていく。